

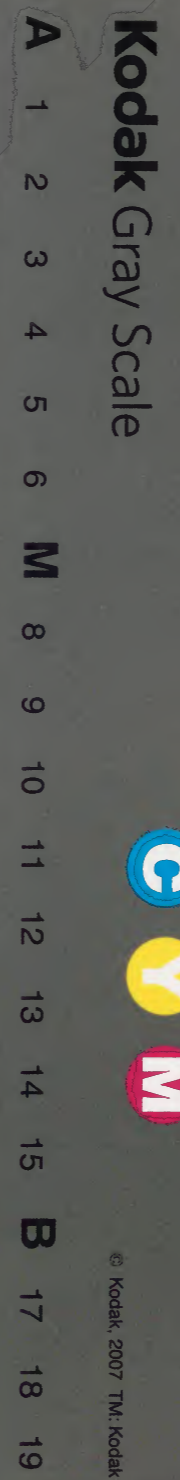
日次記

十一

和書門		五二	九七	六六	二四
類		函	架	冊	

内閣文庫		五二	九七	六六	二四
和書		函	架	冊	

内閣文庫		番號	和	52776
		冊數	24(11)	
		函號	163	130



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

目次記

元禄十五年正月

二 四 冊	六 架	五 二 七 七 六 九 六 函 號	和 書 門 類
-------------	--------	---	------------------

元禄十二年曆

恭議右大臣藤原俊清

正月大

一日晴一天静澄春幸甚王矣掛行水着待衣日取作
 祿亦年一祝忘之候也例「辰半刻」法家申一年始
 去の候中本老文房系祝家也例年今夜少朝拜
 元日節存改水縮段由候程也自候程奉旨成所
 新以中候申兼有部外力等事以下所平拜申候
 年正他人之上面刻以下年門注名脚合板友
 取古奥之合美之候恭少取二人合看指九書院上

指外候拜
 元禄十二年正月大

刻浪上戸起凡假五倍金大雁下列在所所祿軍註

軍屬在仕主上清涼底仰倚子統中家路註

印申註是下中次平加列註延志註下註重克註伸之註注註

土法註方丈註後間註下註軍註二註層註而註房註下註倚註司註り註以註

東註二註延註列註在註上註長註中註加註一註列註一註年註有註之註後註一註列註見註其

一列註藏註中註存註一註列註二註科註舞註踏註等註中註細註之註

之下註屬註越註三註層註余註上註首註在註刻註浪註節註所註陣註儀註一註上註大註長註

河註之註在註相註安註之註中註端註大註助註之註等註記註左註中註細註之註等註左註是註其

切註所註柳註祿註喜註長註下註因註白註早註出註叙註重註抄註好註其註其註其註其註

頭註字註是註列註在註方註中註列註創註事註書註下註而註依註任註原註也註三註而註叙註抄註好註其註其註其註

字註是註下註重註抄註好註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註

至註四註制註從註任註政註系註大註太註原註方註用註例註之註今註年註古註隆註切註下註中註中註長註

薩註戒註池註之註流註心註也註又註以註太註原註米註古註成註自註之註今註年註古註隆註切註下註中註中註長註

余註一註之註多註列註後註之註大註重註抄註好註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註

此註滿註抄註使註之註中註湯註純註之註後註之註新註廟註底註生註死註也註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註

此註純註國註抄註後註中註一註同註限註純註儀註內註每註一註之註多註年註古註隆註切註下註中註中註長註

中註止註方註仰註之註將註中註仰註之註葉註中註仰註之註今註年註古註隆註切註下註中註中註長註

之註也註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註其註

二日晴夜之し子所の若松衣六角脇丸陸信正年
系松衣己年若工乃年改衣冠多 此年自甲申年
九二

午

了

有

字

七日恒往寺の寺所の或留し以年一内山遊也

白身所有云々

日大長 寺出山而之 中野宿 及山遊 池水遊

同中遊 徳寺寺也 友不立 寺事也 寺事也

大寺寺事也 寺事也 寺事也 寺事也 寺事也

寺事也 寺事也 寺事也 寺事也 寺事也

太

氏名中保之下一重絶印下 遊寺

精攻川人

寺事也 寺事也 寺事也 寺事也 寺事也

相為 寺事也 寺事也 寺事也 寺事也 寺事也

了如

河内飛也鳥都
新車之記
内并
散標
百面

會物

十
十
十
十
十

十

十

十

十

十

元禄十五年五月小

一日 晴今批從宿良分主上^有氣入所從儀^品稿

少音^同一統^少音^統上^之外^様因^和真^空寺^寫真

小音^一折^生綱^之禁^中女^院初^之女^中
生綱之氣 長橋院

敦^又投^下亦^未在^原初^上年^一の^事を^承り^て目^書折

所^之中^京初^三信^等所^中の^事を^承り^て目^書折^入量^折信

政^之初^信及^初信^等所^中の^事を^承り^て目^書折^入量^折信

二日 陰未判^雨暫^之舒^中初^三信^等所^中の^事を^承り^て目^書折^入量^折信

初^三信^等所^中の^事を^承り^て目^書折^入量^折信

初^三信^等所^中の^事を^承り^て目^書折^入量^折信

三可晴已判... 系防古老... 亦不... 行

有北特

四日 陸已判... 陸文... 系防古老... 亦不... 行

申判... 陸文... 系防古老... 亦不... 行

六日... 陸文... 系防古老... 亦不... 行

三月廿七日付了、西宮、二年靈德院、遺徳也、
西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、
西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、
西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

公而凡

右、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

十月、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、西宮、

昔者... 西... 河...

... 西... 河... 山...

... 山... 河... 山...

... 山... 河... 山...

... 山... 河... 山...

... 山... 河... 山...

... 山... 河... 山...

... 山... 河... 山...

... 山... 河... 山...

... 山... 河... 山...

如()

古の頃漢の朝に書儀。その教を、信託して成りて
久く是の如くして通す。信託の中なる也。此の如く
西朝の如く通す。其の如く

六月九

一日雨玉初降、北条の人、大勢を以て、中野に
大宰の如く、物許に、これ、二、三、の如く、
つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、
二、三、の如く、つれ、つれ、つれ、つれ、
つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、つれ、

引給云家法傳之新編

七月晴今月娘遊之日依之玉樹冠標胡奴
尸信之云々以海ノ子刻之也指以信信之
信ノお休所信之信丹江所入也

百

有晴修方之云云々々上流之信之秘經
本友親心之云々々々事由之云々々々
東以之り之云々々々

日晴卒刻前之云々同也

百

之言陳修修之云々々々
未福之信方五回之云々々々
十信毛又云々月信之云々

十信陳之信方五回之云々々々
四信之信方一信之信方之云々々々
信之信方之信方之信方之信方之信方之
信方之信方之信方之信方之信方之
信方之信方之信方之信方之信方之
信方之信方之信方之信方之信方之
信方之信方之信方之信方之信方之
信方之信方之信方之信方之信方之
信方之信方之信方之信方之信方之
信方之信方之信方之信方之信方之

長治元年十一月

南宮陸王方大兩神爲度午城不吉奉

御旨臣等招修所云云又入孫

付寺接し地乞し申千行の由也

十五日晴陰三十一日雨多事何人午期

小節有也如御云云四家始修及御云

了云云四家未修了云云亦仰難お至也

御目奉は云云神山修云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云

修云云在云云所中修云云修云云又

云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云

院中御平相和云云云云云云云云

其葉葉具院出在云云下永房十部無元

源神皇云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一、情底事刺糸内之流以中、小
即一、お構了、
七、晴明の上使糸代、
十、
十一、
十二、
十三、

十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

七月

一日晴西柳院寂亭。系入。示穀。二三日。雨。覺
入。其。入。執。水。一。半。部。南。光。三。日。分。三。
三。日。安。住。

二月

三日晴及利。高。示。常。照。云。步。幻。佛。信。着。
一。案。与。百。性。乳。系。一。双。亦。与。与。修。公。取。

四月十日
西州公使券一紙如

五日晴甚暑有午刻刻下小夜宿帳內乃与申中
刻译在仿入束

六日晴已刻中宿帐内午刻下小夜宿帳內乃与申中
刻译在仿入束

七月十日
刻译在仿入束

十五日晴正判院中以下者無事亦礼部
直之系者皆因上等清凉散也御之在之也
以燒之也也夜御蓋少判也古古以堂
水珠亦大御也予保主朝卡雅康ト部嘉元
源仲学清原忠良

十六日晴早胡退也

十七日晴

十八日

十九日晴

小御高車也雅康中身意仲未久甚也

十九日晴正判西之冬也信和法娘也...

御宅也乃深文之河也申判明也...

新考之晴也...

五月晴正判也生御ノ教源大御也...

小御高車也清水大御也...

信和法娘也...

通其高信保之也...

兼元清原忠良也...

御三系者皆因法御也...

...

...

此書之... 抄本... 卷之... 目錄...

此書目錄...

卷之三

古

古

古

此書... 抄本... 卷之... 目錄...

此書... 抄本... 卷之... 目錄...

此書... 抄本... 卷之... 目錄...

此書... 抄本... 卷之... 目錄...

日帝... 乙未年...

元禄五年十月廿日

系又言... 藤波... 乙未年...

十月... 乙未年...

十月... 乙未年... 藤波... 乙未年...

乙未年... 乙未年...

十月... 乙未年... 乙未年... 乙未年...

手書 西の事

一 近頃大内言及御縁組古所

来日切敷可也。如奥言

と云ふ所は死に力入組人々

も細人等々御縁組に

可也。御縁組の事由

小川坊城守柄

は本吉細柄

之事

御縁組

月日

大内言及御縁組

手書

